

### 3. 戦略の基本理念

#### (1) 基本理念1：新たなベストミックス実現に向けた三原則

##### 原則1：原発への依存度低減のシナリオを描く。

原子力発電に電力供給の過半を依存するとしてきた現行のエネルギーミックスをゼロベースで見直す。<sup>1</sup>

すなわち、原子力発電については、より安全性を高めて活用しながら、依存度を下げていく。

同時に、再生可能エネルギーの比率を高め、省エネによるエネルギー需要構造を抜本的に改革し、化石燃料のクリーン化、効率化を進めるなど、エネルギーフロンティアを開拓する。<sup>2</sup>

##### 原則2：エネルギーの不足や価格高騰等を回避するため、明確かつ戦略的な工程を策定する。

政策の予見可能性を高め、経済活動・国民生活への影響を最小限にするため、安全で安定的、効率的かつ環境にも優しいエネルギー構造を再構築する工程を検討し、明確にする。

エネルギー不足やエネルギー価格の高騰により、経済活動と国民生活に支障が生じないよう常に最善の対応を図る。その際、国際的なエネルギー戦略の動き、エネルギー資源を巡る動向、主要国のエネルギー政策の展開などにも注視しながら、工程を策定する。

##### 原則3：原子力政策の徹底検証を行い、新たな姿を追求する。

原発への依存度低減のシナリオを具体化するに当たり、原子力政策の総合的な検証を行う。

どの程度の時間をかけてどこまで依存度を下げていくのか、新世代の原子力技術開発をどう扱うのか、バックエンド問題や核燃料サイクル政策をどうするのか、世界最高水準の安全性の実現や現存する原子力発電の安全確保を担う技術や人材の確保・育成をどう図るのか、国際機関や諸外国との協調・協力強化をどのように強化していくのかといった点も含めて、明らかにする。<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 参考資料③-1：現行のエネルギー基本計画、③-2：発電電力量と電源構成の推移を参照。(p. 28, 29)

<sup>2</sup> 参考資料④：再生可能電力の導入実績と目標を参照。(p. 30)

<sup>3</sup> 参考資料⑤：各国の原子力政策を参照。(p. 31)